

令和4年度

警察本部運営プログラム

評価票

令和5年8月

警察本部

令和4年度 警察本部施策体系

I 第4次山形県総合発展計画の推進

【 】：第4次山形県総合発展計画実施計画の施策番号

1 県民が安全・安心を実感し、総活躍できる社会づくり【4】

- (1) 暮らしの様々なリスクへの対応力の強化【4-2】
 - ① 様々な犯罪の予防と消費者保護の推進
 - ② 交通事故防止のための取組みの強化

2 未来に向けた発展基盤となる県土の整備・活用【5】

- (2) 暮らしや産業の発展基盤となるICTなど未来技術の早期実装【5-1】
 - ③ 誰もが安全にICTを利活用できる環境づくり

令和4年度 警察本部 主要事業実施状況

I 第4次山形県総合発展計画の推進

1 県民が安全・安心を実感し、総活躍できる社会づくり【4】

(1) 暮らしの様々なリスクへの対応力の強化【4-2】



目標指標	刑法犯認知件数	
	基準値（令和元年）：3, 275件	
	直近値（令和4年）：2, 885件 （前年値3,053件 前年比△168件）	
	目標値（令和6年）：3, 275件未満	
	進捗状況	目標値に到達

取組みの成果

① 様々な犯罪の予防と消費者保護の推進

K P I	重要犯罪検挙率					
	基準値（平成22年～令和元年平均）：85%					
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	85%	85%	85%	85%	85%
	実績値	103.2%	97.2%	65.6%		
	進捗状況	策定時を下回る				

【令和4年度における評価と見直しの方向性】

<地域における防犯対策の推進>

（評価）

- ・ 令和4年中の刑法犯認知件数は2,885件となり、9年連続で戦後最少を更新し、県内の治安を示す指標は概ね良好に推移した。重要犯罪の認知件数も減少したものの、検挙率は前年を下回った。
- ・ 特殊詐欺被害については、被害件数、被害金額ともに増加した。

（見直しの方向性）

- ・ 社会の変容に応じた防犯活動の推進
 - ⇒ 社会・経済情勢の変化等に伴う犯罪傾向・手口の分析と職務質問の強化による犯罪抑止力の発揮
 - ⇒ 「やまがた110ネットワーク」等を活用した防犯情報の発信、巡回連絡時等のきめ細やかな指導による「県民が自らの安全を守るための対策」の定着
 - ⇒ 防犯CSR活動、青色防犯パトロール、通学路等における児童・生徒の見守り、防犯カメラの設置など防犯力を高める自主防犯活動の推進
 - ⇒ 警察安全相談への迅速・確実な対応
- ・ 官民一体の特殊詐欺被害防止対策の展開

- ⇒被害実態の分析に基づく防犯指導、広報啓発活動
- ⇒在宅時における留守番電話設定の促進
- ⇒金融機関、コンビニエンスストア、宅配・郵便事業者等との協働による水際対策
- ⇒口座凍結、犯行使用電話の利用制限措置等による徹底した犯行ツール対策

<児童・高齢者・障がい者等の虐待対策や犯罪被害者対策の推進>

(評価)

- ・令和4年中のストーカー・DV事案の認知件数は増加したが、高齢者・障がい者虐待の認知件数は減少した。
- ・児童虐待事案の通告人員については、前年より減少したものの、未だ高水準にある。

(見直しの方向性)

- ・県民の生命と身体の安全を最優先にした人身安全関連事案への組織的対応
 - ⇒ストーカー・DV事案等に対する危険性・切迫性的確な見極めと迅速な対応
 - ⇒関係機関との連携による児童等への虐待事案の早期発見と安全確保
 - ⇒行方不明事案認知時の組織的な発見活動

<サイバー犯罪の抑止のための対策の推進>

(評価)

- ・令和4年中のサイバー犯罪は、前年と比較して、検挙件数はほぼ横ばい、検挙人員は減少となっているが、サイバー空間の脅威は依然として深刻化しており、対策を強化する必要がある。

(見直しの方向性)

- ・県民が安全で安心して暮らせるデジタル社会の実現
 - ⇒公共空間化したサイバー空間において高度化・多様化する脅威への対処能力の向上
 - ⇒サイバー犯罪に対する各部門及び産学官の連携による被害防止対策及び検挙活動
 - ⇒SNSを利用した児童ポルノ等性的搾取事犯の取締り
 - ⇒サイバーパトロール等によるインターネット上の違法情報・有害情報への総合対策

【令和4年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
防犯活動推進事業費	12,229 (12,229)	・「やまがた110ネットワーク」を活用した情報発信(令和4年中1,185件配信) ・特殊詐欺被害防止対策(広報啓発用ポスター・チラシ制作) ・街頭防犯カメラの増設(山形駅西口地域等に3台増設)	16
子ども・女性安全対策推進事業費	579 (608)	・こども110番連絡所の設置 ・ストーカー被害者等のための緊急通報装置貸出し及び一時避難場所確保(令和4年中の緊急通報装置貸出し人数6人)	16
サイバー犯罪対策事業費	6,573 (6,578)	・サイバー犯罪捜査官の捜査能力向上 ・捜査用資機材の整備	16
捜査活動用資機材整備費	74,817 (74,818)	・捜査用資機材の整備	16

交番・駐在所整備事業費	145,771 (148,448)	・酒田警察署遊佐交番の改築 (令和4年9月竣工) ・鶴岡警察署湯野浜駐在所の改築 (令和5年3月竣工)	16
高速道路交通警察隊分駐隊整備事業費	94,144 (94,166)	・高速道路交通警察隊新庄分駐隊庁舎の新築 (令和4年9月竣工)	16
一般警察行政活動費(無線機更新)	265,149 (291,625)	・無線機の更新	16
計	599,262 (628,472)		

② 交通事故防止のための取組みの強化

【令和4年度における評価と見直しの方向性】

＜交通事故防止対策の推進＞

(評価)

- ・令和4年中の交通事故発生件数、負傷者数は前年より減少したが、死者数は増加した。

(見直しの方向性)

- ・交通事故分析及び交通実態把握に基づく交通事故防止対策
 - ⇒交通事故分析に基づく先制的な交通指導取締りや街頭活動等による交通安全対策
 - ⇒飲酒運転、妨害運転等及び交差点関連違反など、悪質性・危険性・迷惑性の高い交通違反の取締り
 - ⇒交通実態の変化等に即した交通規制の実施と交通安全施設の充実整備
 - ⇒デジタル技術を活用した交通事故防止に資する情報等の県民への積極的な提供による広報啓発活動
- ・地域ぐるみの高齢運転者対策
 - ⇒身体能力と運転技能を自覚させる参加・体験・実践型の運転教育
 - ⇒安全運転相談窓口や運転免許自主返納制度の周知と運転技能検査など高齢運転者対策の円滑な実施
 - ⇒安全運転サポート車の普及啓発活動
- ・社会に根付く歩行者・自転車等対策
 - ⇒「交通安全ありがとう運動」の浸透による歩行者に日本一やさしい山形県に向けた取組
 - ⇒自転車の基本的な交通ルールの周知を図る交通安全教育の推進
 - ⇒関係機関団体と連携した歩行者に対する夜光反射材の普及・着用促進
 - ⇒横断歩行者妨害の取締りと歩行者に対する交通ルールの浸透
 - ⇒通学路等における交通安全の確保

【令和4年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
交通安全施設整備事業費 交通安全施設緊急対策費	980,406 (1,008,522)	・交通信号機、道路標識及び道路標示の整備 (信号機の新規設置3件) ・東北中央自動車道等の延伸に対応した可変式 速度規制標識等の整備	11
高齢者等交通事故抑止対策費	14,400 (14,412)	・「交通安全ゆとり号」等による交通安全教育や 老人クラブ会員等への交通安全研修の実施 (交通安全ゆとり号を使用した研修会を62回 実施)	11
更新時講習等実施費(運転技能 検査)	3,874 (3,888)	・高齢運転者に係る運転技能検査	11
計	998,680 (1,026,822)		

2 未来に向けた発展基盤となる県土の整備・活用【5】

(2) 暮らしや産業の発展基盤となるICTなど未来技術の早期実装【5-1】



取組みの成果

③ 誰もが安全にICTを利活用できる環境づくり

【令和4年度における評価と見直しの方向性】

＜県民のICTリテラシーの向上と安全・安心な利用環境の確保＞

(評価)

- ・令和4年中のサイバー犯罪は、前年と比較して、検挙件数はほぼ横ばい、検挙人員は減少となっているが、サイバー空間の脅威は依然として深刻化しており、対策を強化する必要がある。(再掲)

(見直しの方向性)

- ・県民が安全で安心して暮らせるデジタル社会の実現(再掲)
 - ⇒公共空間化したサイバー空間において高度化・多様化する脅威への対処能力の向上(再掲)
 - ⇒サイバー犯罪に対する各部門及び産学官の連携による被害防止対策及び検挙活動(再掲)
 - ⇒SNSを利用した児童ポルノ等性的搾取事犯の取締り(再掲)
 - ⇒サイバーパトロール等によるインターネット上の違法情報・有害情報への総合対策(再掲)